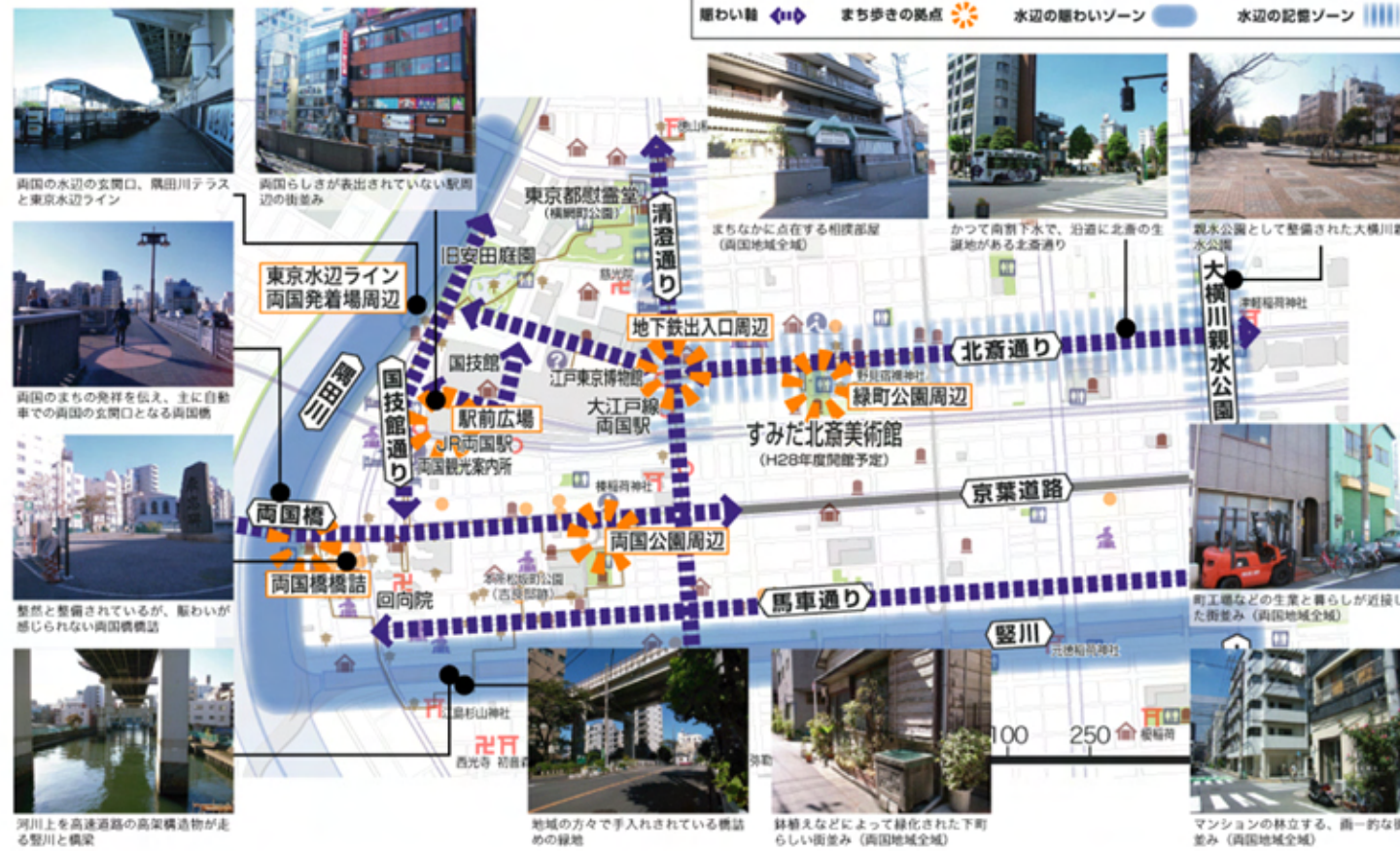


第二編 基本方針と地域展開について

1. 両国地域の現状と課題 施策展開のテーマ「両国川開き」における両国地域の現状と課題

(1) 両国地域の現状

●空間特性から見た両国



●隅田川と水辺に関する歴史的背景

明暦3年（1657年）の振袖火事（明暦の大火）をきっかけに、本所地域（両国地域を含む墨田区南部地域）の開拓が始まりました。まず、大川（現在の隅田川）の両国橋架橋と、無縁仏の冥福に祈りを捧げる回向院が建立されました。火除地として設けられた両国橋の橋詰めは、江戸前寿司、絵草紙、見世物小屋などの屋台などが並び、回向院へ向かう人々等で賑わっていました。また、本所地域の開拓では、竪川・大横川・南北割下水の開さくや区画が整理され、武家屋敷を主とする市街が形成されました。当時の町割は現在の街区構成にも継承されています。

○両国川開きと花火

享保17年（1732年）に発生したコレラと大飢饉による死者を慰めるために、翌年の川開きに花火を打ち上げたのが始まりと言われている。
現在は、隅田川花火大会として継承され、当時より上流で開催されている。



隅田川の川開きの様子(昭和32年)
出典：三冬社(2012)『昭和30年・40年代の墨田区』p.35

○回向院と相撲

回向院境内での勸進相撲は、両国地域が江戸一の盛り場となると興業の頻度が増し、江戸を代表する相撲の名所となった。以来、明治の旧国技館（大鉄傘）、現在の国技館へと継承されている。まちなかには相撲部屋も多く見られ、両国の賑わいを形成する要素となっている。



回向院での勸進相撲の様子
『相撲取組之図』勝川春章

○両国の水辺と浮世絵

両国地域の賑わいや暮らしは、葛飾北斎をはじめ多くの浮世絵師に描かれている。



両国橋と隅田川の様子『葛飾三十六景 御前川より両国橋夕見』葛飾北斎



竪川周辺の様子『葛飾三十六景 本所立川』葛飾北斎

(2) 両国川開きにおける地域資源と課題

両国らしい地域資源

- 隅田川と両国橋
 - ・すみだの歴史に欠かせない隅田川
 - ・江戸の玄関口である両国橋
- 隅田川テラスと東京水辺ライン
 - ・隅田川テラス
 - ・現在の水辺の玄関口である東京水辺ライン両国発着場

両国らしい地域資源

- 竪川などの内河川
 - ・生業に重要な役割を果たした竪川などの内河川
- 大横川親水公園
 - ・大横川親水公園
- 北斎通りなどのかつての堀割
 - ・旧南割下水（北斎通り）
- 内河川や旧堀割
 - ・まちと水辺をつなぐ橋梁

両国らしい地域資源

- 下町らしいしっとりとした街並み
 - ・碁盤の目の路地
 - ・みどりの連なる街並み
- 江戸の粋な文化が薫る街並み
 - ・相撲部屋
 - ・江戸由来の飲食店

課題と方向性

(■課題 □方向性)

- 隅田川とまちの融合を図ることが求められている。
 - 水辺とまちをつなぐネットワークの強化や案内性の向上をめざす。
 - 水辺の快適性を活かし、両国橋の賑わいづくりをめざす。
- 水辺までのわかりやすい動線が求められている。
 - 水辺への動線の改善と両国発着場の利便性の向上をめざす。

課題と方向性

(■課題 □方向性)

- まちに川が溶け込み、まち歩きに活用できる空間づくりが求められている。
 - 川とまちのつながりを作る歩行者環境を整え、まち歩きを誘発し、回遊性の向上をめざす。
- 親水性を生かした賑わいが求められている。
 - 公園のさらなる有効活用による賑わいの創出。
- かつての堀割の様子や、竪川や旧堀割に架けられた橋の歴史的背景を再認識するしかけが必要である。
 - 旧堀割や、竪川や旧堀割に架けられた橋の歴史的背景を再認識し、まち歩きに物語性を持たせる。

両国らしい地域資源

課題と方向性

(■課題 □方向性)

- 震災と戦災による焼失と時代の変化によって下町らしさが少なくなっている。
 - 現在も残っている下町の雰囲気を守りながら、今後新しく建設される建築物についても、地域と連携しながら街並みを誘導していくことをめざす。
- 江戸の文化や歴史が感じられるまちづくりが求められている。
 - 江戸の粋な文化やまちの歴史が感じられる街並みを誘導していくことをめざす。

街並みの修景と誘導

施策展開のテーマ「両国博覧会」における両国地域の現状と課題

(1) 両国地域の現状

●空間特性から見た両国



●文化とものづくりに関する歴史的背景

両国の文化とものづくりには、3段階の発展の経緯があります。まず、両国橋架橋と両国橋界隈の賑わいから発展した江戸前寿司や相撲、浮世絵などの江戸文化、次に、本所開拓と豊富な水資源によって発展した暮らしに根付く生業や町人文化、最後に江戸の町割を生かした、明治以降の近代工業におけるものづくりの発展です。

○両国の江戸文化

両国橋詰めで発展した江戸文化

- ・回向院参詣と相撲、両国花火
回向院での勤進相撲や川開きの両国花火は、江戸庶民の行楽として流行した。
- ・江戸前寿司、猪料理などの食文化
両国橋界隈では、押し簀ではない江戸前寿司のスタイルや、猪鍋などの食文化が流行した。

暮らしとともに発展した江戸文化

- ・竪川沿岸の材木業
北斎の浮世絵にも描かれているように、竪川沿岸には町家が並び、水運を活用した生業などを営んでいた。特に、関東筋の木材を扱う薪炭問屋が多かったと言われる。
- ・足袋、袋物などの町人文化
両国地域には、力士の足袋を仕立てる職人や、煙草入れ、小銭入れなどを製造する職人など、粋な江戸の町人文化を支える生業が成立していた。現在も、足袋、袋物については小さな博物館などで展示・販売している。



○両国のものづくり

江戸の敷地割と豊富な水資源によるものづくりの発展

両国地域は、河川に囲まれた立地や江戸期の開拓で整理された区画による好条件により、明治期以降、工業化が進んだ。特に、精密工業、石けん、製靴が盛んで、大正期には、輸出向けとして、玩具製造などが発展した。戦後、焼け跡にも住宅や工場が建ち、産業のまちとして復興した。
現在も、メリヤス・服飾関連業者を中心に、ものづくり関連の事業者が多く集積している。減少傾向にはあるが、小規模の専用工場、住居併用工場が見られ、ものづくりと暮らしが共存するまちであることがわかる。

繊維、印刷、金属のものづくりと商いのまち

製造業、卸売業・小売業が半数以上を占めている。繊維、印刷、金属製造等の軽工業が多い。また、宿泊業・飲食サービス業が多い点にも特徴が表れている。

(2) 両国博覧会における地域資源と課題

両国らしい地域資源

- 東京都慰霊堂の歴史
 - ・震災と戦災の歴史を伝える東京都慰霊堂
- 本所松坂町公園（吉良邸跡）や寺社仏閣
 - ・本所松坂町公園（吉良邸跡）
 - ・寺社仏閣
- まちなかに点在する史跡・名所と高札案内
 - ・史跡、名所
 - ・高札案内
- 江戸の町割りを継承したまちの骨格
 - ・基盤の目の通り
 - ・旧堀割

両国らしい地域資源

- 両国の発祥と鎮魂への想いを伝える両国橋や回向院
 - ・両国橋
 - ・回向院
- 両国橋界隈で発展した食文化と老舗飲食店
 - ・江戸の食文化
 - ・老舗飲食店
- 相撲文化と関連する地域資源
 - ・回向院
 - ・国技館
 - ・相撲部屋
 - ・ちゃんこ料理屋

- 葛飾北斎をはじめとする浮世絵に描かれた両国の風景
 - ・浮世絵に描かれた両国の風景

- 地域に伝えられる史実や物語
 - ・本所七不思議
 - ・歴史小説

両国らしい地域資源

- 水運などをもとに発展した地場産業の集積
 - ・地場産業の集積
 - ・ものづくりの資源
- 小さな博物館や工房ショップなどのものづくりを発信する施設や地域商店
 - ・小さな博物館
 - ・工房ショップ

課題と方向性

(■課題 □方向性)

- 震災と戦災の記憶を引き継いでいくことが求められている。
- 震災と戦災の記憶や復興の歴史について次の世代へ引き継いでいくための環境づくりをめざす。
- 本所松坂町公園（吉良邸跡）や寺社仏閣の場所やそれらにまつわるエピソードが伝わりにくい。
- 両国地域にまつわる歴史や寺社仏閣をPRし、存在感を出せるような環境を整備することをめざす。
- 街中の史跡・名所の場所がわかりにくい。
- 史跡・名所について歴史的背景を感じられるような環境づくりをめざす。
- 江戸から続く町割りであることを伝えることが求められている。
- 江戸の古地図と現在の道と重なる通りがあるため、江戸の歴史が現在にも継承されていることが感じられる環境づくりをめざす。
- 見通しの良いまちの骨格を活かし、連続する賑わいをつくることをめざす。

課題と方向性

(■課題 □方向性)

- 両国橋や回向院を中心とした、地域に受け継がれる賑わいを継承することが求められている。
- 両国橋や回向院から発せられる鎮魂と復興への想い、鎮魂への想いを賑わいに転化して発展した歴史を発信していくことをめざす。
- 両国橋界隈で発展した食文化や老舗飲食店を伝えていくことが求められている。
- かつてのまちの賑わいを今に伝える食文化や老舗飲食店を、まち歩きの魅力を高める資源として、発信していく。
- 両国が相撲のまちとなった歴史が伝わりにくい。
- 回向院の勤進相撲に由来する相撲の歴史を継承し、相撲にまつわる地域資源をわかりやすく示し、外へ発信していく環境をめざす。

- すみだ北斎美術館開館に向けて地域の方々と共に、葛飾北斎と両国のつながりを再認識する必要がある。
- 葛飾北斎と両国のつながりについて、地域全体で発信していくしかけづくりを行うことをめざす。

- 地域に伝承される史実や物語を外部へ発信していくことが求められている。
- 江戸から現在まで地域に伝承されてきた史実や物語を、まち歩きの資源として外部へ発信していくことをめざす。

課題と方向性

(■課題 □方向性)

- 製造業等の地方や海外への拠点の移転や集約化等の傾向が見られ、ものづくりのまちであることが伝わりにくくなっている。
- 両国地域のものづくりの伝統を活用し、ものづくりの技術や文化を継承していける環境をめざす。
- 両国地域に点在する小さな博物館や工房ショップなどの商店等を活用することが求められている。
- 小さな博物館や工房ショップから、ものづくりのまちであることを発信していくしかけづくりをめざす。

地域資源の活性化と賑わい軸の強化

江戸の粋な文化の発信

ものづくりの伝統の継承と発信

施策展開のテーマ「両国棧敷」における両国地域の現状と課題

(1) 両国地域の現状

●空間特性から見た両国



●主な既存イベントの開催場所と主催団体 (H24年時点)



●既存イベントの開催スケジュール

開催月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
地区全体				両国にぎわい祭り	徳之山まつり					北斎まつり		
その他										すみだガラス		吉良祭・元禄市
両国駅前	大相撲優勝パレード				大相撲優勝パレード							
両国公園												
両国駅前			3/10 春季慰霊大法要						9/1 秋季慰霊大法要			
両国駅前	両国駅前コン(3番ホーム)											
両国駅前	大相撲初場所											
両国駅前	土俵祭り											
両国駅前		5000人の第九コンサート										
両国駅前												
両国駅前												
両国駅前												

●まち歩きの活性化に向けた取組と広域の回遊性

○まち歩き活性化に向けた取組
墨田区では、まち歩きの活性化によって区内の回遊性を向上させる取組を実施している。H25年度の「まち歩き博覧会」では、区内のまち歩きコースを24コース発表した。

すみだ春のまち歩きイベント (H26.3.23 墨田区主催)

スカイツリーソラマチ広場での食を中心としたイベント、錦糸町駅前でのトークショー、両国駅前での駅弁販売、ヤッチャバ等3つの拠点で地域と連携したイベントを同時開催した。



○区内の広域交通ネットワーク
両国地域は、鉄道や地下鉄、公共バス、区内循環バス、また、舟運観光を楽しめる水上バス等、多様な交通ネットワークに恵まれている。

鉄道/地下鉄

両国は、JR総武線と都営大江戸線の2線の停車駅があり、区内外各方面からアクセスすることができる。

区内循環バス / 公共バス

区内循環バスは、区内の主要観光資源をつなぐよう、3つのルートが設定されている。各ルート15分間隔で運行しており、区内のアクセスの向上に寄与している。

公共バス

公共バスは、区内を縦横に運行しており、区内外のアクセスの向上に寄与している。

東京水辺ライン

隅田川を軸に、両国、吾妻橋、お台場等の東京の主要な観光拠点を結び、交通手段としてのみならず、水辺の舟運観光を楽しむことができる。

(2) 両国棧敷における地域資源と課題

両国らしい地域資源

- 下町らしい暮らしぶり
・下町のコミュニティ
・人々の暮らしぶりや賑わい
- 地域商店のおもてなし
・店先の休憩スペース
・街歩き案内処
・おもてなしの心、下町の心意気

両国らしい地域資源

- 地域事業者やまちづくり団体によるイベント
・両国にぎわい祭り
・北斎祭り
- 寺社仏閣を中心とした祭礼
・吉良祭、元禄市
・氏子主体の祭礼
- 地域主体のまちづくり活動
・地域活性化の取組
・街並みづくりの取組

両国らしい地域資源

- 交通起点と交通起点周辺の賑わい軸
・駅前広場、地下鉄入り口
・清澄通り、国技館通り
- まち歩きの要所となる拠点とまち歩きの目印となる賑わい軸
・両国公園、緑町公園
・北斎通り、馬車通り
・京葉道路、清澄通り
- 駅周辺のシンボル性のある集客施設や新たに整備される集客施設
・国技館
・江戸東京博物館
・すみだ北斎美術館
- 観光ガイドによるまち歩き
・まち歩きガイドツアー
- 鉄道、水上バス、区内循環バス等の交通ネットワーク
・JR
・地下鉄
・区内循環バス / 公共バス
・東京水辺ライン
- 区内各所を巡るまち歩きイベント
・広域的な回遊性の向上に向けた取組

おもてなしの演出

取組の底上げと連携

まち歩きの充実と回遊性の向上

課題と方向性 (■課題 □方向性)

- 地域の方同士のコミュニケーションが図れるような雰囲気をつくる
ことが求められている。
- 地域の方同士の交流や、来訪者と地域の方々との交流がもてるような環境整備をめざす。
- 既存の地域商店を活かし、賑わいをつくる
ことが求められている。
- 既存の地域商店を活用し、下町らしいおもてなしの演出方法を検討
していくことをめざす。

課題と方向性 (■課題 □方向性)

- 年間を通して開催されているイベント同士でつながりを感じるような
連携が必要である。
- 開催時期や場所が近接しているイベント同士の連携や情報共有の方法
について検討する。
- 地域行事を継承する担い手を支援する手法が必要である。
- 地域の心意気を効果的に発信することができる祭りなどの地域行事
を継承していくために、取組の連携手法を検討する。
- 各まちづくり団体の連携を図る必要がある。
- これまでの地域のまちづくりを活かし、観光まちづくりのコンセプト、
まちの将来像を共有する機会を設けていくことをめざす。

課題と方向性 (■課題 □方向性)

- 駅周辺のしつらえに賑わいや心意気を持たせることが求められている。
- まち歩きを促すような情報提供が必要である。
- 駅周辺のまちの玄関としての設えや、まち歩きを活性化させる情報提供
の方法等、おもてなしの環境を整えることをめざす。
- まち歩きの途中で、周辺のまち歩きの情報が収集できる場所が必要である。
- 主要な通りに賑わいを持たせることが求められている。
- 周辺のまち歩き情報が収集でき、地域との交流が持てるような場所を、
周辺施設等と連携を図りながら整えることをめざす。
- 賑わい軸やその周辺の魅力を高め、回遊性の向上を図ることをめざす。
- すみだ北斎美術館等、新たに整備される集客施設と既存の集客施設
との連携を持たせる必要性が求められている。
- 両国駅周辺の観光関連施設の集積を活かし、交通拠点での情報案内
や誘導、また相互の施設の回遊性を高める歩行者環境の整備をめざす。
- まち歩きのテーマが多様化している。
- 既存の取り組みを活かしながら、若年層や外国人などの新たな客層
に向けたガイド案内や、ガイドの育成を図ることをめざす。
- 既存の交通ネットワークをわかりやすく周知する必要がある。
- 既存の交通ネットワークを活用し、区内循環バス停留所等交通拠点で、
地域情報の案内の充実を図ることをめざす。
- 観光客の回遊性が求められている。
- 他地域や下町文化圏等との連携により、さらなる魅力を向上し、区
内外からの集客と回遊性の向上を図ることをめざす。

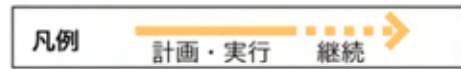
2. 基本方針と計画スケジュール

まちの発信力を高める

～両国の粋・技・心の発掘、磨き上げ、編集、発信と、積み上げ～

3つの施策展開のテーマ「両国川開き」、「両国博覧会」、「両国棧敷」から、それぞれ「水辺の賑わいの再生と創出」、「地域資源の活用と発信力の強化」、「おもてなし気運の醸成とまち歩き観光の促進」をめざし、まちの発信力を高めるソフトを中心とした事業を展開します。

地域展開にあたっては、両国地域全体で、既存のイベントや地域の観光まちづくりの取組を踏まえ、「粋・技・心」の効果的な視点を通して発掘し、磨き上げ、編集し、発信します。



まち歩き環境の魅力を高める

～しっとりとした街並み、歴史ある文化、暮らしぶりを魅せる～

まち歩きの骨格となる軸や拠点について、来訪者が安心して、かつ粋にまち歩きを愉しめる環境をつくります。まち歩き環境の素地となる軸、拠点、ゾーンを事業展開の骨組みとし、それぞれについて、まち歩き環境の魅力を高めるハードを中心とした事業を展開します。地域展開にあたっては、地域の特性や地域資源、回遊動線、既存の取組等を踏まえ、エリアごとに具体的な方向性を共有しながら展開します。必要に応じて、国や東京都等の観光まちづくりの動きとの連携や、活性化や賑わいづくりに関する諸制度の活用などにより、官民連携のまちづくりを進めていきます。

事業展開01 賑わい軸

- 両国川開き 街並みの修景と誘導**
両国らしい暮らしと生業が共存する街並みやコミュニティを大切に、街並みづくりに活かします。まちのみどりを生かし、下町らしい街並みを創出します。地域特性に合わせた街並みのルールやデザインコードづくりにより、粋な江戸文化が感じられる街並みを創出します。
- 両国博覧会 地域資源の活性化と賑わい軸の強化**
地域の方々に大切にされてきた地域の歴史や寺社仏閣などの地域資源の活用を図ります。まちなかに点在する史跡・名所・歴史的背景を踏まえたまち歩き環境と、地域資源をつなぐしかけをつくります。
- 両国枝敷 まち歩きの充実と回遊性の向上**
賑わい軸の演出や、東西・南北動線の改善など、まち歩き環境を整えます。周辺環境や歴史的背景を踏まえた沿道の店舗や街並みによる賑わいを創出します。まちなかに点在する地域資源をつなぎ、下町らしい物語性が感じられるまち歩き環境をつくります。

事業展開02 まち歩きの拠点

- 両国川開き 両国川開きの賑わいの再生と創出**
浅草や日本橋の下町文化圏を結ぶ玄関口として、隅田川の舟運を活用した広域からの来訪者を迎え入れる環境を整えます。
- 両国博覧会 江戸の粋な文化の発信**
明暦の大火をきっかけにかけられた両国橋などに込められた鎮魂と復興への思い、その後発展してきた両国の文化を発信するしかけをつくります。両国橋周辺の賑わいや文化、ものづくりの歴史を発信するしかけをつくります。
- 両国枝敷 まち歩きの充実と回遊性の向上**
案内情報やベンチ等のアメニティの充実を図り、回遊性の向上と賑わいの創出を図ります。人々の憩いの場となっている両国公園や緑町公園及びその周辺と、北斎通りなどの賑わい軸や地域資源を連携し、回遊性の向上を図ります。

事業展開03 水辺の賑わいゾーン・水辺の記憶ゾーン

- 両国川開き 両国川開きの賑わいの再生と創出**
隅田川テラスや両国橋橋詰の修景などにより、かつての川とまちの関係性が感じられる景観を再生します。両国駅から隅田川テラスへの誘導案内等により、水辺への動線の改善を図ります。
- 両国川開き まちの親水性の向上**
堅川沿いの歩行者環境や夜間環境の改善により、まち歩きや夕涼みなどが愉しめる水辺の環境をつくります。水辺にちなんだ設えの工夫などにより、北斎通りなどのかつての堀割等の演出と水辺の記憶の再生を図ります。堅川や旧堀割に架けられた橋梁の歴史や物語性を演出し、発信するしかけをつくります。



凡例 事業主体：●行政(国、東京都、墨田区)、★行政と地域の連携による実施
 ●計画 ●実行 ●継続